

## 米中対立の緊張下で日本の進路考える

### 1年8か月ぶりに「ぎふ・中国くるぶ交流講座」

コロナ禍で自粛してきた「ぎふ・中国くるぶ交流講座」は1年8か月ぶりに再開、6月27日、岐阜市橋本町のハートフルスクエアGで米中対立が続く中で日本の進路について理解を深めた。

村上太輝夫・朝日新聞オピニオン編集部解説面編集長が「中国・習近平政権の行方と日本の進路」のテーマで講演した。

#### 【講演要旨】

習近平国家主席とは？

当初、弱い指導者で、改革派と見られていた。それまでの歴代指導者は、建国の英雄・毛沢東、改革開放の旗手・鄧小平に指名された人物が務めてきたが、習近平はいずれでもない。

浙江省党書記（2002～07年）時代、行政改革を積極的に進め、その頃に会った元日本大使によると、同席した部下に好きなようにしゃべらせ、大物の印象を得たという。

『薄熙来事件』が習氏の政治姿勢を変える

2012年2月、秋の党大会で最

高指導部入りを画策する重慶市党書記・薄熙来の側近が米領事館に亡命を試みた事件で、妻による殺人事件、不正蓄財、拷問が明るみに。

組織（党）分裂をもたらすと見た習氏は汚職追放運動を追い風に党内引き締め、権力集中を防ぐ集団指導



米中対立の中で日本の進路について話す村上太輝夫さん

＝岐阜市、ハートフルスクエアG

から習氏への個人指導へと着々手を打った。とりわけ最高幹部の摘発はタブーとされてきたが、側近の王岐山氏を使って2013年から周永康・元中央政治局常務委員、制服組トップの中央軍事委副主席にもメスを入れた。

党内に政策課題ごとのグループを設けトップに就き、自らを“党の核心”と定め、国家主席の任期（2期10年）を撤廃した。党や政府の重要ポストに同級生、地方勤務時代の部下など身内で固めた。

#### 今後の政策課題は？

経済成長率は中長期的に鈍化傾向にある。原因は労働力人口比率が下がる少子高齢化で、国民が十分豊かになる前に高齢化を迎えるため、社会保障の財源確保は大変厳しい。

#### 国民の豊かさをどう高めるのか？

一人当たり1万ドルのGDPを先進国並みの3万ドルまで高めたい。それには経済の拡大と質の向上。『一帯一路』はユーラシア、アフリカでの市場、天然資源の獲得が狙い。情報技術、自動車など10の産業を重点強化する2015年の『中国製造2025』は米国の警戒を招いたが、今年3月の全国人民代表大会で承認された第14次5カ年計画はイノベーションと基礎研究の予算を増

やす方針を示した。  
新段階の米中対立

科学技術と軍事力の競争が実態で経済関係は基本的に維持されている。米ウォール街（金融界）は中国の富裕層の資産運用などに商機を見出している。

### 日本の向き合い方

香港での言論統制や新疆ウイグル自治区の人権問題は、習氏の再集権化の過程で生じた統治体制のほころび。中国をいい国にしたいという改革派を支援し、隣に苦しんでいる人がいればためらわず手を差し伸べ、関係国や国際組織と協調して問題提議を続けるべき。一方で日本国内の人権問題にも真摯に取り組むことが必要だ。

### 2021年度定期総会

ぎふ・中国くるぶ交流講座  
など新年度事業を承認

岐阜県日中友好協会の2021年度定期総会はぎふ・中国くるぶ交流講座に先立って開かれ、杉山幹夫会長が議長を務め、2020年度事業報告及び収支予算、オン

ライン会議・個人会費の規約改正案、2021年度事業計画及び収支予算案など、5議案を事務局の提案理由を聞いて審議、いずれも原案通り承認された。



2021年度総会で議案審議する会員  
＝岐阜市、ハートフルスクエアG

### ◇日中関係のお薦め高著

「ピンポン外交50周年記念国際シンポジウム記録集一名古屋ピンポン外交から半世紀の日中・米中関係」（東海日中関係学会編集・発行、送料込千二百円、B5判107頁）

今年4月に名古屋市で開かれた「ピンポン外交50周年記念国際シンポジウム」の記録集Ⅱ写真

Ⅱ。米中接近、日中国交正常化を促進したピンポン外交の教訓と、現在の米中対立や日中関係について考えるヒントとなる。

申し込みは同学会。〒111-1061  
Tokai.n.c@gmail.com  
FAX 052(624)7878。  
住所、氏名、電話番号、希望部数を明記。本到着後、愛知銀行本山支店 普通口座 744953  
東海日中関係学会へ振り込む。

### ◇はじめまして◇

生まれも育ちも中国・南京。南京の日本人グループが主催する英会話サークルで、大学院で研究生生活を送る日本人留学生と知り合い結婚。博士号を取得した新郎の出身地、岐阜市へ。

岐阜に住んで11年余り。長良川の清流、自宅の庭で花を育てる人たちに目を見張ったが、今ではすっかりなじんだ。

2020年末から岐阜市国際交流協会に勤務する。災害で断水した場合に備え、簡易トイレや非常食のノウハウを担当課が中国人にオンラインで伝える際



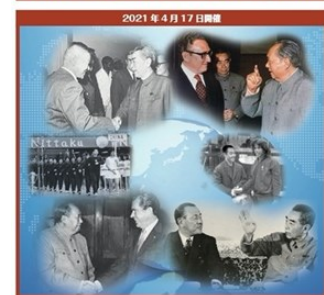
中国伝統戯曲「越劇」を岐阜の人に見せたいと語る顧雅蓉さん  
＝岐阜市内

の通訳がコロナ禍の主な仕事。楽しみは月1回の中国語講座。15人に限定し、「受講者から岐阜のしきたりや考え方を学べるいい機会」と前向きだ。

趣味は多彩。南京に居た頃、中国の伝統演劇（戯曲）「越劇」のアマチュアグループに所属。「コロナが収束したら岐阜の人たちに紹介するのが夢」と笑顔で語る。37歳。

ピンポン外交50周年記念国際シンポジウム 記録集

名古屋ピンポン外交から  
半世紀の日中・米中関係



東海日中関係学会